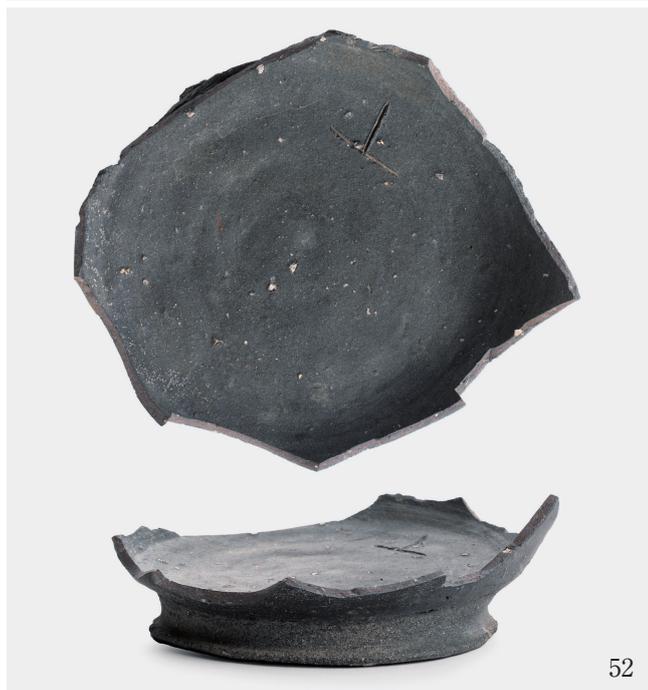
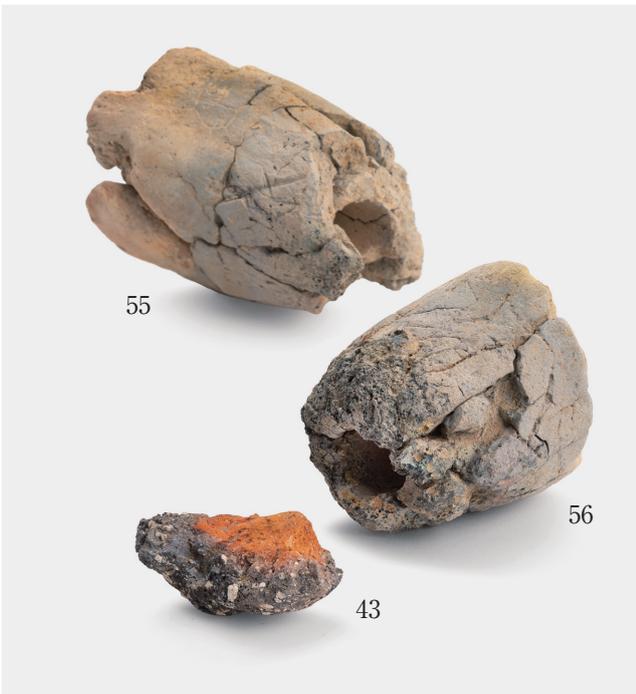




供膳具集合

出土遺物①



# 報告書抄録

ふりがな	みずきあと							
書名	水城跡4							
副書名	第64次調査							
巻次	4							
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第197集							
編著者名	山元 瞭平、上田 龍児（編集）							
編集機関	大野城市教育委員会							
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町2-2-1 電話 092(501)2211							
発行年月日	2022年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みずきあと 水城跡 第64次	福岡県 大野城市 下大利 3丁目 17番3ほか	402192		33° 31' 9"	130° 29' 38"	2018年 12月7日 ～ 2019年 3月26日  2019年 12月7日 ～ 2020年 3月30日	約350㎡	確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
水城跡	防衛施設	飛鳥時代 奈良時代 平安時代	濠・溝・広場	土師器・須恵器・黒色土器・陶磁器・土製品・弥生土器		土塁北側の外濠および広場を確認		
要約	<p>調査地は水城土塁と御笠川が交差する、通称「欠堤部」と呼ばれる地点にあたる。5ヶ所のトレンチを設定し、調査を実施した。1・2・4トレンチでは全面で外濠を確認した。外濠の基盤層は粗砂層で、最下層にはグライ化した粘土層が堆積する。下層は8世紀前半以前の流水に伴う土層で、砂・シルト層が堆積する。上層は粘質土が堆積し、平安時代にはほぼ埋没したことが明らかとなった。3・5トレンチでは土塁前面に外濠がない部分（広場）を確認し、この地点に近接した外濠内から8世紀前半の土器がまとまって出土した。御笠川に面した立地上、防衛的な機能や水運と関わる空間の可能性がある。</p>							

大野城市文化財調査報告書第197集

## 水城跡 4

令和4年3月31日

発行 大野城市教育委員会  
〒816-8510 福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷 九州コンピュータ印刷  
〒815-0035 福岡市南区向野1丁目19番1号